2026東北ヘアーモード学院

理容科　シラバス

２０２６年度 授業計画（シラバス）

課目名	関係法規・制度	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	貝沼
単位数	１単位	履修時期	2年次 通年	授業方法	講義	実務経験	

学習目標	理容師・美容師の業務に関係する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解させ、あわせて、公衆衛生を担う理容師・美容師の社会的責務、職業倫理について、自覚を促すこと。理容・美容の業務に関する規定内容を正確に理解させるとともに、衛生法規が、理容業・美容業を行う場合の指針として有する意義を把握させること。
使用するテキスト	『関係法規・制度』（公益社団法人日本理容美容教育センター） 『理容師法令集』（公益社団法人日本理容美容教育センター）
年間の授業計画	年間の授業計画 １法制度の概要 ・人と社会生活　・法とは何か ２衛生行政の概要 ・衛生行政　・保健所 ３美容師法 ・理容師法の目的　・用語の定義　・理容師試験 ・免許と登録　・理容師の義務　・管理理容師 ・理容所の開設　・開設者の衛生措置　・理容所以外での業務 ・立入検査　・行政処分　・罰則 ４関連法規 ・生活衛生関係営業の運営の適正化及び進行に関する法律 ・株式会社日本政策金融公庫法 ・労働基準法 ・労働安全衛生法 ・地域保健法 ・消費者基本法
試験の実施方法	期末考査を実施
成績評価方法	期末考査の評点、ノート提出、出席状況や授業態度の評点

２０２６年度 授業計画（シラバス）

課目名	衛生管理	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	菊地
単位数	３単位	履修時期	１、２年次通年	授業方法	講義	実務経験	

学習目標	公衆衛生の意義と本質とを明らかにすることによって、理容師・美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解させることが必要であること。特に、生活衛生の意義と目的について、理容師・美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させること。理容師・美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視して、理容・美容における衛生措置の重要性について理解させること。特に、理容・美容器具などの消毒法は、理容・美容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であるので、その意義と原理について十分に理解させるとともに、その適正な実施方法を身に付けさせることが肝要であること。
使用するテキスト	衛生管理（公益社団法人日本理容美容教育センター）
年間の授業計画	１編 公衆衛生 １章 公衆衛生の概要 ・公衆衛生の意義と課題 ・公衆衛生発展の歴史・理容師と公衆衛生 ・保健所と理容業 ２章 予防医学と保健 ・予防医学 ・公衆衛生と統計 ・保健 ・母子保健 ・成人高齢者保健 ・精神保健 ２編 環境衛生 １章 環境衛生 ・環境衛生の概要 ・空気・水・日光 ・衣服住居と健康 ・上下水道と廃棄物・衛生害虫とネズミ ・公害と環境保全 2章 美容所の衛生環境 ・美容所の衛生管理 ・衛生取扱い ３編 感染症 １章 感染症の総論 ・人と感染症 ・病原微生物 ・感染症予防 ２章 感染症の各論 ・美容と感染症 ・主な感染症 ４編 衛生管理技術 １章 消毒法総論 ・消毒とは ・消毒の意義 ・美容業務と消毒との関係 ２章 消毒法各論 ・理学的消毒法 ・科学的消毒法 ・実施上の注意 ３章 消毒法実習 ・各種消毒薬 ・消毒の実際 ・清潔法の実際
試験の実施方法	前期、後期定期考査内を実施
成績評価方法	定期考査の点数をそのまま前期、後期の成績評価とする。

２０２６年度 授業計画（シラバス）

課目名	保健	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	佐藤
単位数	３単位	履修時期	１、２年次通年	授業方法	講義	実務経験	

学習目標	理容・美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識の習得を目的とすること。理容・美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させること。
使用するテキスト	『保健』（公益社団法人日本理容美容教育センター）
年間の授業計画	1 人体構造及び機能 1. 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 ・人体各部の名称　・頭部、顔部、頸部の体表解剖学 2. 骨格器系 ・骨の種類と構造　・骨の連結　・骨格器系とそのはたらき 3. 筋系 ・筋の種類とその特徴　・骨格筋とそのはたらき　・表情筋 4. 神経系 ・神経系の成り立ち　・中枢神経とそのはたらき　・末梢神経とそのはたらき 5. 感覚器系 ・視覚　・聴覚　・平衡感覚　・味覚　・嗅覚　・皮膚感覚 6. 血液・循環器系 ・血液のあらまし　・血液循環のしくみ　・心臓と血管のはたらき　・リンパ 7. 呼吸器系 ・呼吸器系のあらまし　・気道　・肺の仕組みとガス交換　・呼吸運動 8. 消化器系 ・消化器系のあらまし　・消化器系の仕組み　・消化管のはたらき 2 皮膚科学 1. 皮膚の構造 ・表皮、真皮、皮下組織 2. 皮膚付属器官の構造 ・毛　・脂腺　・汗腺　・爪 3. 皮膚の循環器系と神経系 ・血管　・リンパ管　・神経 4. 皮膚と皮膚付属機関の生理機能 ・対外保護　・体温調節　・知覚と皮膚反射　・呼吸　・吸収 5. 皮膚と皮膚付属器官の保健 ・皮膚と全身状態　・皮膚と精神　・皮膚と栄養　・皮膚とし好品 6. 皮膚と皮膚付属器官の疾患・皮膚異常とその種類　・化膿菌、ウイルス、真菌、害虫
試験の実施方法	前期末、後期末にそれぞれ期末考査を実施
成績評価方法	期末考査の評点 平常点

２０２６度 授業計画（シラバス）

課 目 名	香粧品化学	課 目 区 分	必修課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	山口
単 位 数	２単位	履 修 時 期	１、２年次 通年	授 業 方 法	講義	実 務 経 験	

学習目標	香粧品は、理容・美容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものであることから、その化学的な性質を理解させるとともに、これを正しく使用するためには正確な知識と適正な技術とを身に付けることが重要であることを認識させること。理容・美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、香粧品の正確な科学的知識と合理的な取扱方法を習熟させ、あわせて、香粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ぶことを目標とする。
使用するテキスト	香粧品化学（公益社団法人 日本理容美容教育センター）
年 間 の 授業計画	●香粧品総論 【香粧品総論】 ・香粧品とは・香粧品と造形 【香粧品を使用する際に気をつけるべきこと】 ・香粧品の使用によるトラブル・香粧品の定義と法規則・香粧品の安全性と安定性 【香粧品の成り立ち】 ・香粧品の成り立ち・水と親水性溶媒・油性原料 【界面活性剤】 ・高分子化合物・色材・香料・製品を安定させる配合原料・その他の機能性配合原料 ●香粧品各論 【スキンケア製品】 ・香粧品の効果と使用プロセス・コンディショニング用香粧品 ・トリートメント用香粧品・ 【メイクアップ製品】 ・メイクアップ製品の種類と剤形・ベースメイクアップ香粧品 ・ポイントメイクアップ香粧品・アイメイクアップ製品 ・まつ毛ケア製品・ネイルメイクアップ製品・ネイルケア製品 【ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスキャルプケア製品】 ・ヘアクレンジング用香粧品・ヘアコンディショニング用香粧品 ・ヘアスタイリング料・パーマ剤・ヘアカラー製品・スキャルプケア製品
試 験 の 実施方法	前期末、後期末にそれぞれ期末考査を実施
成績評価 方 法	期末考査の評点 出席状況や授業態度・ノート提出の評点

２０２６年度 授業計画（シラバス）

課目名	文化論	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	菅原(髙)
単位数	２単位	履修時期	１、２年次通年	授業方法	講義	実務経験	
学習目標	日本・西洋の文化の歴史、主に髪型・服装・メイクの変遷について学ぶ						
使用するテキスト	『文化論』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						

年間の授業計画

年間の授業計画

１．総論

２．日本の理容業・美容業の歴史

・理容業・美容業の発生　・江戸、近代、現代の理容業・美容業

３．ファッション文化史　日本編

・縄文、弥生、古墳時代　・飛鳥、奈良、平安時代
・鎌倉、室町、戦国時代　・安土桃山時代
・江戸時代　・明治、大正、昭和 20 年まで
・1945～1950 年代　・1960～1970 年代
・1980～1990 年代　・2000 年代以降

１．ファッション文化史 西洋編

・古代エジプト　・古代ギリシャ　ローマ
・古代ゲルマン　・中世ヨーロッパ
・近世Ⅰ　16 世紀　・近世Ⅱ　17 世紀
・近世Ⅲ　18 世紀　・近代Ⅰ
・近代Ⅱ　19 世紀　・現代Ⅰ
・現代Ⅱ　・現代Ⅲ
・現代Ⅳ　1960 年代　・現代Ⅴ　1970 年代・現代Ⅵ　1980 年代　・現代Ⅶ

２．礼装の種類

・和装の礼装
・洋装の礼装

試験の実施方法	前期、期末考査を実施
成績評価方法	考査の採点 ノート提出、授業態度、出席日数の評点

２０２６年度 授業計画（シラバス）

課 目 名	理容技術理論	課 目 区 分	必修課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	**菊池**
単 位 数	５単位	履 修 時 期	１、２年次 通年	授 業 方 法	講義	実 務 経 験	
学習目標	理容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力を身につけさせる						
使用するテキスト	理容技術理論１（公益社団法人日本理容美容教育センター） 理容技術理論２（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授業計画	序章　理容技術理論を学ぶにあたって １章　理容技術の基礎 ２章　理容用具 ３章　ヘアデザイン ４章　ヘアカッティング ５章　ヘアセッティング ６章　パーマネントセット ７章　ヘアカラーリング ８章　シェービング ９章　理容エステティック １０章 理容クリニック １１章　シャンプーイング＆リンシング １２章　理容マッサージ １３章　ヘアトリートメント １４章　スキャルプトリートメント						
試 験 の 実施方法	前期・後期定期考査内を実施						
成績評価 方　法	考査の採点、ノート提出、小テスト、授業への取組みの評点						

２０２６年度 授業計画（シラバス）

課 目 名	運営管理	課 目 区 分	必修課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	西谷
単 位 数	１単位	履 修 時 期	２年次 通年	授 業 方 法	講義	実 務 経 験	
学習目標	経営管理及び労務管理の基本的事項を学習することによって、理容業・美容業における経営管理手法の重要性を認識させ、理容所・美容所の経営に役立たせること。理容業・美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚させるとともに、消費者対応の基本を学ばせ、実践する能力を身に付けさせること。						
使用するテキスト	『運営管理』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授業計画	１．経営者の視点 ・経営とは、経営者とは ・理容業・美容業の経営について ・資金の管理 ２人という資源　従業員としての視点 ・人という資源 ・健康・安全な職場環境の実現 ・従業員としての視点から ３顧客のために ・サービスデザイン ・マーケティング ・サービスにおける人の役割						
試 験 の 実施方法	前期、後期考査を実施						
成績評価 方 法	前期、後期考査の採点 ノート提出、出席率、授業態度の評点						

２０２６年度 授業計画（シラバス）

課目名	理容実習	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	菊池、原 千葉、黒澤
単位数	３０単位	履修時期	１、２年次 通年	授業方法	実習	実務経験	○

「実務経験のある教員による授業」に該当する課目

理容師として理容室に勤務していた教員が、実際に理容室で行われているカット、ヘアセット、シェービング等の技術を取り入れた授業を行う。

学習目標	理容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため基礎的技術を身につけさせるとともに、これらの基本的操作を組み合わせて完成させる技術を習得させる
使用するテキスト	『理容実習１』（公益社団法人理容美容教育センター） 『理容実習２』（公益社団法人理容美容教育センター）
年間の授業計画	１．スタンダードヘア ２．デザインヘア ３．ヘアセッティング ４．パーマネントウエーブ ５．アイアニング ６．ヘアカラーリング ７．シェービング ８．ハンドケア ９．フットケア １０．ヘアクリニック １１．シャンプーイング＆リンシング １２．ヘッドマッサージ １３．クリニックマッサージ
試験の実施方法	前期（２回）、後期（２回）実技試験を実施
成績評価方法	実技試験の評点（設定時間内、質、取り組みの姿勢等） 授業態度、取り組み方、出席状況の評点

２０２６年度 授業計画（シラバス）							
課 目 名	総合学習	課 目 区 分	選択課目 一般教養	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	佐藤、山口、 菅原
単 位 数	４単位	履 修 時 期	１、２年次 通年	授 業 方 法	講義	実 務 経 験	○
学習目標	卒業後直ぐに離職することなく業界で活躍し長く働くために、会社選びに必要な知識や社会人としての基本を理解し、将来のキャリアプランを確立させること。また、ヘアショーを通じ美容師として、社会人として必要なコミュニケーション力を学びます。						
使用するテキスト	担当教員オリジナル資料						
年 間 の 授業計画	1. 理美容業界について　キャリアプラン 2. 働く時の基礎知識 3. 進路ガイダンス 4. 職業講話 5. 社会人としての基本						
試 験 の 実施方法	レポート提出						
成績評価 方 法	レポートの評点 授業態度、取り組み方、出席状況の評点						

２０２６年度 授業計画（シラバス）

課 目 名	総合実習	課 目 区 分	選択課目 専門教育	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	佐藤、菅原 山口、岩渕、 太田、角地、 熊谷、鈴木 佐々木、畠山
単 位 数	１４単位	履 修 時 期	１、２年次 通年	授 業 方 法	実習	実 務 経 験	○

「実務経験のある教員による授業」に該当する課目

美容師とし美容室に勤務していた教員が、実際に美容室で行われているカット、ヘアセット等の技術を取り入れた授業を行う。

学習目標	就職後に即戦力になる事を目的とし、現場で必要な基礎技術を集中的に修得する。
使用するテキスト	『美容実習』（公益社団法人日本理容美容教育センター）
年 間 の 授業計画	1. 『シャンプーイング』 ・クロスかけ ・ブラッシング ・ヘッドマッサージ ・サイドシャンプー ・バックシャンプー ・トリートメント 2. 『スタイリング』 ・ブロー ・ヘアアレンジ ・アイロン操作 ・アップ 3. 『カラーリング基礎』 ・グレイカラー ・リタッチ ・ブリーチ ・マニキュア 4. 『メイクアップ』 ・スキンケア.ベースメイク.アイメイク. アイブロウメイクアップ ・リップメイク. 特殊メイク 5. 『エステティック』 ・フェイシャルケア技術・フェイシャル及びデコルテマッサージ ・フェイシャルパック 6. 『ネイル』 ・ネイルの歴史 ・ネイル技術体系 爪の構造と働き ・ネイルのための皮膚科学 ・ネイルのための生理解剖学Ⅰ ・ ネイルのための生理解剖学Ⅱ・爪の病気とトラブル 消毒法 ・マッサージ理論 化粧品学（ネイル用化粧品） ・色彩理論 ・ネイルカウンセリング ・プロフェッショナリズム ・サロン環境 テーブルセッティング/ネイルケアデモンストレーション ・プレマニキュア（テーブルセッティング） ・手指消毒 ・ポリッシュオフ ・ファイリング・キューティクルクリーン ・カラーリング ・ハンドマッサージ ・全工程のトレーニング ・ジェルネイル（カラーリング）・ ジェルネイル（ジェルアート）
試 験 の 実施方法	前期、後期に実技試験を実施
成績評価 方 法	実技試験の評点 授業態度、取り組み方、出席状況の評点

２０２６年度 授業計画（シラバス）							
課 目 名	美学	課 目 区 分	選択課目 専門教育	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	菅原(髙)
単 位 数	２単位	履 修 時 期	１、２年次 通年	授 業 方 法	講義 実習	実 務 経 験	
学習目標	ヘアデザイン画を通じ、よりお客様に適したヘアアスタイルを提供できるようなデザイン力を磨く。同時に、集客の為の広告宣伝のデザインを学び作品を制作する。						
使用するテキスト	担当教員オリジナル資料						
年 間 の 授業計画	1．ヘアデザイン画 2．ＰＯＰ、チラシの作成の仕方 3．広告デザイン、伝達デザイン、色彩構成、宣伝広告作成						
試 験 の 実施方法	作品提出						
成績評価 方　　法	作品の評点 授業態度、取り組み方、出席状況の評点						